

リケダン（理系男性教師）によるこれまでになかった「新しい切り口」で、新潟県公立高校入試をデータ分析し、予測を立てて対策をする。

# リケダン

vol. 1 2021.05.01

## データ分析

# R3新潟県公立高校入試

著者 KATEKYO 柏崎 教師

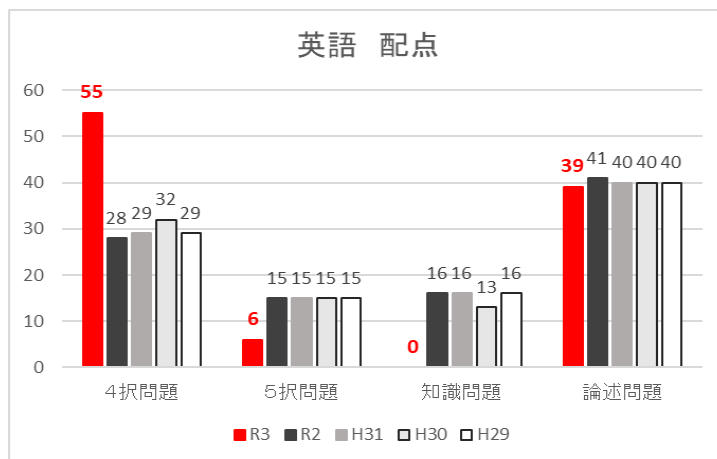
## 長谷川 工

（リケダン＝理系男子）

## 英語の配点・正答率・平均点について

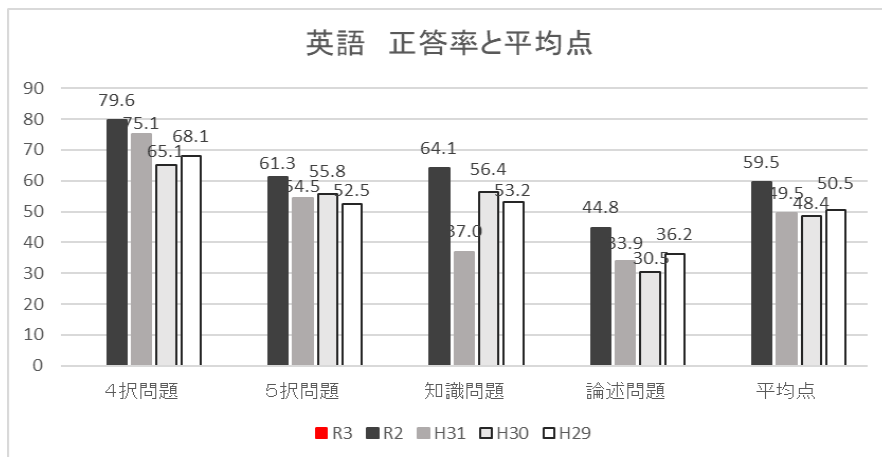
### 【 R3(2021)年度入試の配点 】

英語の配点は、大きく変化しました。4択問題が大幅に27点も増加、知識問題(英単語の記述)が大幅に16点減少し配点0となりました。また、5択問題も4択問題に代わり、5択問題は並べ替え問題のみになっています。英語は、配点61点もある選択問題が中心になり、リスニングや図表・広告文を短い時間のうちに読み取り判断していく力が求められています。



### 【 R2(2020)年度入試の平均点 】

前年より10点も上がっています。配点の大きい4択問題と論述問題の正答率増加が大きく影響しています。昨年も指摘した「英問英答」と「課題作文」が得点を伸ばすために有効です。特に、英文を書く力で4択問題も得点できるので主語・動詞のある英文を書く力を磨きましょう。



※ 2021(R3)年度の正答率と平均点は、2021年6月ごろ判明

### 【 配点と平均点の関連性 】

配点は例年あまり変化がありません。平均点もあまり変動していないと言えます。わずかな平均点の上下は、4割の配点を占める論述問題の難易度・正答率と連動していると言えます。

国語に比べ、知識問題の正答率が低いいため、国語よりも平均点が低い傾向にあります。国語の漢字で得点するように、英語の単語書き取り(ディクテーション)が出来ると得点が伸ばせます。また、4択問題に比べて5択問題(並べ替え)になると正答率が15%も減少しています。国語などには見られない傾向であり、選択肢が増えると対応できず、適切な記号を選べていないと推察されます。

### 【英語の得点アップに向けた対策・戦略について】

#### ① 全ての中学生

知識問題で確実に得点 ← リスニングに加えディクテーションの力を付ける

#### ② 平均点越え

文法で得点アップ ← 語句のつながりを意識し語形変化・並べ替えで得点する力

#### ③ 目指せ！高得点

論述問題で得点アップ ← 英問英答、課題作文で得点する力